

心理劇

THE JAPANESE JOURNAL OF PSYCHODRAMA

第12巻 第1号 / 平成19年12月1日 Vol.12, No. 1, December 2007

巻頭言	藤堂 宗継	1
特集・シンポジウム<アクションメソッドの広がり>		
特集にあたって	川幡 政道	5
ダンスセラピーにおけるアクションメソッドの実践と効用	大沼 小雪	11
ゲシュタルト療法と心理劇	荒川 旬美	17
「アクションメソッドの広がり」を考える—指定討論の立場から	高良 聖	23
原 著		
身体行為と言語的想起に関する一考察	福榮 太郎	27
—身体に秘められたドラマ—	川幡 政道	
実践報告		
社会的テーマで演じる「学びの即興劇」	武田富美子	41
連想の一研究—ロール・プレイングからのアプローチ—	森岡 剛	57
書 評		
「サイコドラマ—集団精神療法とアクションメソッドの原点」	増野 肇	73
(J.L.モレノ著, 白揚社)の翻訳を振り返って		
「発達障害のための心理劇」(高原朗子著)	吉川 晴美	74
情 報		
日本集団精神療法学会印象記	藤堂 宗継	77
国際集団精神療法集団過程学会第8回環太平洋地域会議		79
会 報		80

THE JAPANESE JOURNAL OF PSYCHODRAMA

Vol.12 No. 1 / December 2007

CONTENTS

Remarks

Introductory RemarksMunetsugu Todo·· 1

Remarks on Special Articles • Symposium : The Spread of Action Method.

On the Symposium.....Masamichi Kawahata·· 5

The Action Method in Dance TherapyKoyuki Ohnuma··11

Gestalt Therapy and Psychodrama.....Hitomi Arakawa··17

Discussion.....Kiyoshi Takara··23

Articles

A consideration of body action and verbal remembering

—The drama hidden in the body—Tarou Fukue··27

Masamichi Kawahata

Practice Studies

"Learning from ad-lib drama" within social themesFumiko Takeda··41

A study of word associations —An approach from role-playing—

Tsuyoshi Morioka··57

Book Review73

Information77

Announcement80

Edited and Published by

JAPAN PSYCHODRAMA ASSOCIATION

(c/o Musashino University, Faculty of Human Studies, 1-1-20 Shinmachi, Nishi-Tokyo,
202-8585, JAPAN)

President : Hajime Mashino (Japan Lutheran College)

Editor : Masamichi Kawahata (Yokohama City University)

Editorial Committee : Hiroko Ibaragi (Komazawa University), Masahiro Ito (Niigata University of Health and Welfare), Yoshie ogasawara (Psychotherapy Office TMS), Munetsugu Todo (Yamazaki Mental Hospital), Susumu Harizuka (Kyushu University), Yasuko Muto (Yokohama National University), Harumi Yoshikawa (Tokyo Kasei Gakuin University)

執筆要項

1. 論文の内容は未公開のものに限る。事例提示の場合には、そのプライバシーに関し著者が責任をもって十分配慮すること。
2. 論文の長さは、原則として原著は表と図、写真を含めてB5判(20×20字)用紙40枚まで、資料は30枚までとし、それを超える場合は実費を投稿者の負担とする。
3. 原稿は横書きで、原則として常用漢字・現代かなづかいを用い、数字は算用数字を用いること。表と図、写真は必要最小限にして別紙に書き、本文中にその挿入箇所を明示すること。
4. 投稿論文の冒頭には、本文とは別に表題、著者名、所属機関名並びにその英訳を記す。また、英字アブストラクト(200語以内)およびその日本語訳を必要とし、英語で5項目以内のキーワードをつけること。英文は英語の専門家の校閲を経ていること。
5. 外国人名、地名に原語を用いる以外には、記述中の外国語になるべく訳語をつけること。
6. 引用文献には本文の最後に著者名のアルファベット順に一括して記載し、本文中では、著者名(発行年)で引用すること。
 - a) 文献の記述形式は、雑誌の場合は、著者名、公刊年度(西暦)、論題、誌名、巻(ゴチック)、号、記載頁の順序による。単行本の場合は、著者名、発行年度(西暦)、書名、発行所とする。ただし、編者と担当執筆者の異なる単行本の場合は、該当執筆者名を筆頭にあげ、以下発行年度、編者名、書名、発行所の順とする。
 - b) 同一著者で2種以上の文献がある場合には発行年度順とし、さらに同年度に同一人の2種以上の文献がある場合には1990 a, 1990 bのように区別して記載すること。
7. 校正は、初校を著者、再校以降は編集部で行う。
8. 原著、資料論文については、執筆者に別刷20部を贈呈する。それ以上は執筆者の負担とする。
9. 本誌に掲載された論文の原稿は、原則として返還しない。
10. 投稿に際しては、投稿原稿とは別にコピーを2部必ず添えて、書留便として送付すること。

編集委員

委員長：川幡 政道

委員：伊東 正裕

武藤 安子

茨木 博子

吉川 晴美

小笠原 美江

Douglas E. Forster (英文校閲)

藤堂 宗継

針塚 進

編集規定

1. 本誌は日本心理劇学会の機関誌として年1巻発行する。
2. 本誌は、原則として本学会会員の心理劇に関する論文の発表にあてる。
ただし、非会員からの投稿論文で本学会に寄与するものは、掲載が認められることもある。
3. 本誌には、特集、原著、資料のほか、書評、会報などの欄をもうける。
4. 特集、書評欄は、原則として編集委員会の指定した依頼原稿によって構成する。
5. 原著論文は、未公刊の心理劇とその関連分野に関する理論的ならびに臨床的研究論文とする。
6. 資料は、未公刊の事例・調査・実践等を報告する論文とする。
7. 原稿論文は、編集委員会によって審査され、その掲載の可否が決定される。
なお、編集委員会は、会員もしくは会員外に審査協力を依頼することがある。審査協力者の氏名は、「編集協力委員」として公示する。
8. 本誌の編集は、編集委員の責任のもとに行われる。
9. 原稿の印刷に特に費用を要するものは、執筆者の負担とする。
10. 本誌に掲載された論文を無断で複製および転載することを禁ずる。

心理劇 第12巻 第1号

編集 日本心理劇学会編集委員会

2007(平成19)年12月1日発行

発行 日本心理劇学会

〒202-8585 東京都西東京市新町1-1-20

武蔵野大学人間関係学部人間関係学科

第7研究室気付

FAX 0424-68-3089

製作 社団法人やどかりの里

やどかり印刷

〒337-0026 さいたま市見沼区染谷1177-4
